

女性研究者活躍後押し

女性研究者の活躍について考えるシンポジウム「ライフイベントを乗り越えて―女性研究者が研究を続ける環境とは」が13日、岐阜市大学西の岐阜薬科大であった。県内の研究機関に勤める若手研究者らが、子育てや介護などの人生の転機を迎えても研究が両立できる社会の実現に向け、意見を交わした。
(大賀由貴子)

岐阜薬科大で シンポジウム 若手が方策探る

岐阜大と岐阜薬科大の育成と支援を通し、岐阜女子大、医薬で地方創生を目指す品製造の「アピ」(岐「清流の国輝くギフジ阜市」が連携し、昨年「ヨ支援プロジェクト」度から始めた女性研究の一環。

シンポジウムでは基調講演の後、若手研究者の男女6人がワークライフバランスをテーマに討論した。



会社員の夫と勤務地が合わず別居も多いという岐阜大流域圏科学研究センターの小山真紀准教授は、学会など出張が多い経験を踏まえ、時間と場所の制約が育児との両立を困難にしていると指摘。「オンライン会議の活用や、自宅から大学のシステムにアクセスができるなどの制度緩和が必要」と提案していた。

女性が人生の出来事を乗り越えて研究を続けられる環境づくりについて意見を交わす若手研究者たち。岐阜市大学西、岐阜薬科大

「オンライン会議活用で育児と両立」

※複製転載禁止

岐阜新聞社総合メディア局許諾済み